

ISBN4-901730-78-9

ティップス先生からの7つの提案

IT活用授業編



名古屋大学
高等教育研究センター
情報メディア教育センター

ティップス先生からの7つの提案とは

本冊子は、よりよい教育を実現するための具体的方法をまとめた『ティップス先生からの7つの提案』の4番目の冊子です。これまで名古屋大学高等教育研究センターは、教員編、学生編、大学編の3冊子を発表し、教員、学生、大学組織が、それぞれの立場から教育の質向上のために何を実行したらよいのかを提案しています。

4番目にあたる本冊子は、大学教員やティーチングアシスタントが新しい情報通信技術であるインターネットやメールなどを活用して、よりよい教育を実現するための提案と具体的なアイデアをまとめたものです。つまり、このIT 活用授業編は、これまで開発した教員編をITという観点から充実・発展させた内容になっています。

技術は教育現場に大きな影響を与えます。歴史をふりかえるとこれは明らかです。活版印刷技術は教科書や文献などを学生全員に配布することを可能にし、ビデオ機器は授業の中に映像を取り入れることを可能にしました。インターネットやメールなどのITもまた、授業の形態をより発展させる可能性を秘めています。

日本の大学においても、すでに多くの先生方が、ITを活用してさまざまな授業を実践しています。しかし、新しい技術を単に授業に導入しただけで自動的に授業がよくなるわけではありません。それらの技術の特性をうまく活用してこそ、授業を大きく改善することができます。

あなたが授業内容を学生によりよく理解させるために、ディスカッションを行いたいと考えたとしましょう。しかし、授業内にディスカッションを取り入れる時間が十分にとれないことが往々にしてあります。その場合でもインターネット上でアクセスできる掲示板は学生の居場所を問わないため、授業時間外にディスカッションをさせる有効な手段になります。ただし、掲示板を用意しただけで、有益なディスカッションが展開されるとは限りません。たとえ

ば、前もって掲示板で発言する時のルールを伝えたり、掲示板を頻繁にチェックするように伝えたり、ディスカッションが拡散しそうな時に論点を整理したり、学外の専門家に加わってもらったりなど、いくつかのアイデアがあります。このようなアイデアを実践することによって、授業時間外のディスカッションを成功させることができるでしょう。

本冊子は、学内外での調査を通じて収集した優れた教育実践例をデータベース化し、『ティップス先生からの7つの提案』の枠組みに基づいて、それらを整理し、簡潔な表現にまとめて提供するものです。この冊子のねらいは、それぞれの大学教員に埋もれていた優れた教育実践とそのための知恵を明示し、広く共有するための枠組みを提供することにあります。本冊子で言うIT活用授業とは、メール、掲示板、インターネット上のウェブサイト、自分で制作するウェブサイト、授業支援システムである WebCT などを活用する授業のことです。また、これまでITを活用してこなかった教員にも取り組みやすいアイデアを多く含めました。

『ティップス先生からの7つの提案』を制作するヒントになったのは、米国高等教育学会で開発された『優れた授業実践のための7つの原則』でした。この既存の開発物を参考にしながら、コンセプトを発展させ、さらに日本の大学での活用をめざしたものが『ティップス先生からの7つの提案』です。今回のIT活用授業編はこれまでの3冊子とは異なり、名古屋大学の高等教育研究センターと情報メディア教育センターの教員が協力して開発した点にも特徴があります。また、ITを活用した授業を実践している大学教員から構成される WebCT ユーザ会が蓄積してきた教育実践事例も、本冊子を開発する上で大いに参考にしました。このように開発した IT 活用授業編が加わることにより、『ティップス先生からの7つの提案』は、さらにオリジナリティの高い開発物になったと考えています。

ティップス先生からの7つの提案の使い方

この冊子の使い方としては、以下を想定しています。

1. 7つの提案は、覚えやすい簡潔な文章からなっています。あなたが日頃気をつけていること、努力していることを整理して、体系化するための枠組みとして活用できます。
2. 49個のアイデアの中には、あなたがこれまで実践したことのないような項目も含まれているかもしれません。その中でご自分の授業に取り入れてみたいものがあつたら、ぜひ実践してはいかがでしょうか。とりわけ、それぞれの提案の中で上の方にリストされているアイデアは、これまでITをあまり授業に取り入れてこなかった教員にも実行しやすいものになっています。
3. 『ティップス先生からの7つの提案』には、他の分冊もあります。教員編、学生編、大学編もぜひご一読ください。それらの分冊は同じ目標を達成するために教員、学生、大学組織の三者がそれぞれの立場から何をしたらよいかを関連させてあります。特に一般的な授業のアイデアをまとめた教員編は参考になるでしょう。また、学生向け冊子をクラスに配布して周知させると、授業改善のためのあなたの取り組みがより効果的になるでしょう。
4. この冊子に含まれているアイデア以外に、さらに優れたアイデアを実践されている方も少なくないでしょう。あなたが日頃の授業で大事にされていること、あるいは工夫されていることを、ぜひ高等教育研究センターまでお伝えください。次回以降の改訂に反映させていただきます。

提案 1

学生と接する機会を増やす

学生と接する機会が教室空間を超えて広がることは、ITを活用する大きな利点です。学生からの質問の受けつけや、学習のためのアドバイスが、場所と時間の制約を受けることなく行えます。教室での指導に加え、メールや掲示板など、授業時間外でも学生と接することのできる手段を取り入れ、学生の授業への参加度や学習効果を一層高めてみましょう。

- ➡ メールを書くときは、学生の個人の名前で呼びかける
- ➡ 学生に自分のメールアドレスを公開し、メールによる質問を受けつける
- ➡ 授業に関連する新聞記事の閲覧、テレビ番組の視聴を即座にメールで呼びかける
- ➡ 教員自身の研究成果がわかるウェブサイトを紹介する
- ➡ 掲示板への書き込みがしやすいように、教員から呼びかけの書き込みをする
- ➡ 授業開始直後に、教員の期待を伝えるウェルカムメールを受講者に送る
- ➡ 授業のウェブサイトを利用して、定期的に授業関連情報を発信する

提案 2

学生間で協力して学習させる

授業時間外に学生が一同に集まって学習することは容易ではありません。しかし、ITを活用することで、学生が同じ場所に集まらなくてもインターネット上で協力して学習することができます。ただし、協力的な学習活動は自然には起こりにくいので、協力して学びやすい雰囲気や仕組みをつくるよう心がけましょう。

- ➡ 初回の授業終了後に掲示板で自己紹介をさせる
- ➡ メールによる質問は、掲示板やメーリングリストを使って全員にフィードバックする
- ➡ 学生がグループで利用できるメーリングリストや掲示板を設定する
- ➡ グループの学習成果をインターネット上に公開する
- ➡ 教室でのディスカッションの前に、掲示板を使って事前のディスカッションをさせる
- ➡ 掲示板でのディスカッションの口火を切る学生の勇気をほめる
- ➡ 学生間で各自の学習成果に対して掲示板でコメント・評価し合う機会を設ける



提案 3

学生を主体的に学習させる

授業にITを活用したとしても、単に受け身の学習では高い学習効果を期待することはできません。学生の主体的な学習を支援する道具として、ITを授業の中で取り入れてみましょう。たとえば、ITを活用することで、学生が自分で調べたことや意見を書いたり、蓄積したり、さらにインターネット上で発信したりすることができます。

- 掲示板に学生の学習計画を書かせ、学習への主体性を高める
- 学生に課題文献の書評を書かせて掲示板に投稿させる
- 学生の学習に役立つサイトやメーリングリストを紹介する
- インターネット上で公開されている優れた教材を学習活動に取り入れる
- フィールドワークと組み合わせるなど、コンピュータの前だけでは完結しない課題を出す
- 試験では使用しないサンプルテストや練習問題をウェブサイトに公開する
- オンラインテストを利用して、合格するまで何度でも受け直させる問題を用意する



提案 4

学習の進み具合をふりかえらせる

学生にとって、どこまで学習目標に近づいているのかを確認することは、その後の学習を進める上で貴重な情報です。同時に、教員にとっても授業の進め方をチェックするよい機会となります。ITを活用することで、迅速かつ頻繁なフィードバックや個別のフィードバックが可能になり、学生の学習のふりかえりを支援することができます。

- メールによる質問に対しては、2日以内などできるだけ早く返事をする
- 授業についていけない学生や欠席の多い学生にメールで連絡をとる
- 定期試験の終了後、多くの学生が間違えた問題の解説をウェブサイトで公開する
- メールを利用することで、レポートへのコメントを学生に素早く返し、推敲させる活動を取り入れる
- 授業を録音・録画したファイルを公開し、予習・復習に活用させる
- 学生に学習成果をまとめたポートフォリオのサイトを作らせる
- 学習状況や成績の分布を知らせることで、学生がクラスの中での自分の位置を把握できるようにする

提案 5

学習に要する時間を大切にする

授業時間外の学習の大切さは広く理解されているようですが、いかに学生の授業時間外の学習を促進するかにとまどう教員も少なくないようです。ITの活用によって、質疑応答ができることはもちろん、予習・復習用の教材や練習問題を多数の学生に一斉に配信することで、学生の授業時間外の学習を支援できます。

- ➡ 週に最低2回はメールや掲示板を確認するよう学生に伝える
- ➡ 掲示板での標準的な発言回数を示す
- ➡ 授業の開始時に、ウェブサイト上に授業の計画と課題の締切を一覧にして示す
- ➡ 課題の締切が近づいたら、その旨を知らせるメールを送る
- ➡ 掲示板でのディスカッションが拡散しそうな時は、論点を整理するような発言をする
- ➡ 学生が予習・復習できる教材をウェブサイトに用意し、授業時間外の学習を促す
- ➡ 学生に授業で使用する資料を授業開始までに印刷して持ってくるよう指示することで、多人数への資料配布のための時間を短縮する

提案 6

学生に高い期待を寄せる

学習成果の共有は、ITの活用によって容易になります。優れた学習成果をクラス内に示すことで、教員が該当する学生をほめるのみでなく、他の学生にも刺激を与えることができます。また、ITは教室空間にとどまらない広い世界にアクセスし、情報発信することができるので、ルールやマナーについても学生に高い水準の態度を求める必要があります。

- ➡ 授業内容の延長上にある最先端の研究に関するサイトを紹介する
- ➡ 学習成果をインターネット上で公開することを伝え、より広い読者のために書くということを意識させる
- ➡ 優れた学習成果をクラス内で共有し、学習成果の見本を提供する
- ➡ 他人の著作物を尊重することの大切さを伝え、インターネット上の情報の引用方法を示す
- ➡ 学外の専門家に学生の学習成果に対するコメントを依頼する
- ➡ 授業で使用した文献の著者が知り合いの場合は、クラスでまとめて感想や質問を送る
- ➡ 発展的な学習内容をウェブサイトに用意し、意欲のある学生に取り組みせる



提案 7

学生の多様性を尊重する

大学はさまざまな学習スタイルや経験を持った学生を受け入れることで活力を生み出しています。ITを活用することで、多様な学習ニーズに合わせた学習経験を与えることができます。また、学生が多様な考え方を持っていることを授業の阻害要因と見なすのではなく、学生の視野を広げ教育効果を高める一手段としてとらえることができます。

- ➡ インターネットが多様な考え方、立場、経験と触れ合えるツールであることを伝える
- ➡ 学生のコンピュータの利用環境とスキルを調査し、情報弱者が出ないように配慮する
- ➡ コンピュータ操作の苦手な学生に対してオリエンテーションを行う
- ➡ 授業について匿名で意見を投稿できる掲示板を用意する
- ➡ 差別的あるいは不適切な表現が含まれた発言がなされた場合、放置せずに学生の意識を高める機会とする
- ➡ 授業時間外の教材や課題を複数用意して、学生が選択できるようにする
- ➡ 海外の大学の研究者や学生と共同して授業を進める

お知らせ

1. 本冊子に収録できなかったアイデアや他の分冊の内容を知りたい方のためにホームページを作成しました。

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/>

2. 名古屋大学でITツールを授業で活用してみようと考えている方には、情報メディア教育センターが次のようなサービスを提供しています。

- ・ WebCT(授業支援システム)
 メーリングリスト、掲示板、小テストの作成など、本冊子で紹介したすべてのITツールは、WebCTで利用できます。
- ・ 授業用メーリングリスト
- ・ 授業用サイト

詳しくは情報メディア教育センター事務室までお問い合わせください。

連絡先: 内線 3903 office@media.nagoya-u.ac.jp

3. この冊子をお読みになった感想、改善案、本冊子に含まれていない重要なアイデアなどをぜひお寄せください。

連絡先: メールの場合は、info@cshe.nagoya-u.ac.jp

学内便の場合は、高等教育研究センター宛

本冊子作成のために参考にした主な文献

池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2001)『成長するティップス先生—授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部.

エミットジャパン編(2005)『WebCT—大学を変えるeラーニングコミュニティ』東京電機大学出版部.

中井俊樹・山里敬也・中島英博・岡田啓(2003)『eラーニングハンドブッカー—ステップでつくるスマートな教材』マナハウス.

中井俊樹・中島英博(2005)「優れた授業実践のための7つの原則とその実践手法」『名古屋高等教育研究』第5号, pp. 283-299.

名古屋大学高等教育研究センター(2005)『「ティップス先生からの7つの提案」の開発』特色GPシリーズ3号.

日本 WebCT ユーザ会(2003-2005)『WebCT ユーザカンファレンス予稿集』各年度版.

日本 WebCT ユーザ会(2003-2005)『WebCT 研究会予稿集』各年度版.

Chickering, A. and Gamson, Z. (1987) “Seven Principles for Good Practice in Undergraduate Education”, *AAHE Bulletin*, Vol. 39, No. 7, pp. 3-7.

Chickering, A. and Ehrmann, S. (1996) “Implementing the Seven Principles: Technology as Lever,” *AAHE Bulletin*, Vol. 49, No. 2, pp. 3-6.

Hanna, D., Glowacki-Dudka, M. and Conceicao-Runlee, S. (2000) *147 Practical Tips for Teaching Online Groups: Essentials of Web-Based Education*, Atwood Publishing.

開発スタッフ

名古屋大学高等教育研究センター

戸田山 和久

夏目 達也

近田 政博

中井 俊樹 (プロジェクトチーフ)

鳥居 朋子

中島 英博 (現在、三重大学高等教育創造開発センター)

齋藤 芳子

名古屋大学情報メディア教育センター

山里 敬也

岡田 啓 (現在、新潟大学超域研究機構)

イラスト

スコーレ株式会社

ティップス先生からの7つの提案<IT 活用授業編>

2006年7月1日 第1版 第1刷

2006年10月1日 第1版 第2刷

著者 名古屋大学高等教育研究センター

情報メディア教育センター

名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-5696

info@cshe.nagoya-u.ac.jp

印刷 株式会社ダイテックホールディング

名古屋市東区主税町4-85

TEL 052-856-6645 FAX 052-856-6646

odp@daitec.co.jp

© 名古屋大学高等教育研究センター・情報メディア教育センター

2006. Printed in Japan

ISBN4-901730-78-9